

# 資料1（修正版）

令和7年 月 日

入間市長 杉 島 理一郎 様

入間市高齢者福祉審議会  
会 長 小 池 佐智子

## 入間市敬老祝金等支給事業の見直しについて（答申）【案】

令和7年5月15日付け入高第125号で諮問を受けた「入間市敬老祝金等支給事業の見直しについて」は、全3回の審議会を開催し慎重に審議を行った結果、下記のとおり答申します。

### 記

#### 1 答申にあたって

本事業は、高齢者に敬意を表し、その福祉の向上を図ることを目的に、昭和46年に「敬老年金」として開始され、昭和59年に「敬老祝金」となってから40年以上が経過しています。その間、支給対象者の増加に伴い、対象年齢や支給額の見直しなどが複数回行われ、現在は、77歳・88歳・99歳の方に対し敬老祝品または敬老祝金を支給しています。

一方で、今後も高齢者人口は増加傾向で推移する見込みであり、社会保障費全体の増加が見込まれる状況にあります。そのなかで、限られた財源を有効に活用し、介護保険制度を始めとした高齢者福祉施策を安定的に運営していくためには、施策の選択と集中が求められます。

これらの状況を踏まえ、当事業については、市から示された対象年齢及び支給内容の縮小案に対し、単なる経費の削減ではなく、事業の目的や社会的意義、将来の持続可能性等の観点を検討し、事業全体の廃止が妥当であると判断します。

なお、事業の廃止にあたっては、今後の対象者に対して丁寧な説明に努め、併せて市民への周知をしっかりと行うことを望みます。

#### 2 答申事項

入間市敬老祝金等支給事業は、廃止するものとする。廃止時期については、速やかに対応されることを要望する。

なお、100歳を迎える高齢者に対しては、国が、「老人の日の記念行事」として実施している祝状と記念品の贈呈に併せ、祝状を贈呈する。併せて、100歳以上の高齢者に対しても市から祝状を贈呈する。